



★ ピアネット・マンスリーの発行について

ピアネット・マンスリーは各団体の活動状況に合わせて定期的に発行していきます。《ピアネット運営事務局》

## ピアネット

### 「ピアネット学生スタッフ合同研修会」を実施しました

12月1日(土)、市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー 26階 スカイホールにて、「2018年度第2回ピアネット学生スタッフ合同研修会」を開催し、本学学生と教職員を合わせて71名(学生51名、教職員20名)が参加しました。ピアネットでは、学生スタッフに対して毎年1~2回の合同研修会を開催し、学生スタッフ間はもちろん、学生スタッフを抱える部局の教職員間の連携、情報共有を行っています。今回は、課外教養プログラムプロジェクト(KYOPRO)スタッフ、ボランティア支援プロジェクト(VSP)、チーム・オレンジ、ライブラリーサポーター、グローバルデイ実行委員、JLP学生スタッフ、(多摩)オープンキャンパス学生スタッフ、(小金井)オープンキャンパス学生スタッフ、学生FDスタッフ、学習ステーション学生スタッフの計10団体が研修に参加しました。2018年度第2回ピアネット学生スタッフ合同研修会では、第1部にHOSEI2030ブランディング推進チームによる「ブランディング推進ワークショップ」(講演・グループワーク)、第2部に情報交換会を行いました。第1部では、HOSEI2030ブランディング推進チームの森田職員から、「楽しく学ぶ「法政大学憲章」講座」と題し、2016年に制定された法政大学憲章「自由を生き抜く実践知」について講義をしていただきました。法政大学憲章の存在自体を知っている学生は非常に多いですが、その内容まで理解している学生は決して多くありません。そこで今回は、大学が作成した法政大学憲章に関するビデオも利用しながら分かり易く説明いただき、参加学生からも理解が深まったようでした。その後、「私にとっての自由を生き抜く実践知」と題したグループワークを実施しました。それぞれのユニットを基本としたグループに分かれ、今までの自分たちの活動を振り返り、自分たちなりの「実践知」を探るグループワークです。実際にグループワークを始めてみると、今まで意識していなかっただけで自分たちが既に「実践知」を磨いていることに気が付いたグループが多くありました。今後のピアネット活動の中で、更に「実践知」を磨いていってくれることに期待したいです。第2部の情報交換会では、団体の垣根を超えて、ざっくばらんにピアネット活動について話すことができ、互いの活動について理解を深める良い機会となりました。会の途中では、各団体の代表者から今後の抱負が語られ、互いに士気を高め合っていました。非常に活発に他団体のスタッフと意見交換をしている姿が見受けられましたので、今後さらに複数団体のコラボ企画が増えてくるかもしれません。参加した学生スタッフからは、「法政大学憲章の意味を知ることができて良かった」「今後は「自由を生き抜く実践知」を意識しながら活動に取り組みたい」「他団体のスタッフから様々な意見やアイデアを貰ったので今後の活動に活かしていきたい」等の声が寄せられました。今後も各団体における活動をはじめ、ピアネット全体としての活動も積極的に展開していきたいと考えております。



開会挨拶をされる  
平山喜雄 教育支援統括本部長



学生による発表



開会挨拶をされるピアネット運営委員長  
児美川孝一郎 教授(キャリアデザイン学部)



集合写真

## 課外教養プログラム(学生センター)

### 「KYOPRO×市ヶ谷学生相談室 相手と自分の心理を読み取ろう」を実施しました

2018年10月26日(金)、市ヶ谷学生相談室の主任心理カウンセラーで臨床心理士の新川田譲氏をお招きし、「KYOPRO×市ヶ谷学生相談室 相手と自分の心理を読み取ろう」を実施しました。学生相談室では、悩み相談の受付だけでなく、学生のスキルアップに繋がるようなプログラムを実施することで、大学生活に不安を抱える学生がより快適な学生生活を送ることができるようにサポートしています。そこで今回のプログラムは、「相手や自分の考え方、感じ方を知る」というテーマのもと、学生相談室の紹介を目的として実施しました。プログラム冒頭では参加者に3,4人のグループに分かれてもらい、「隣の隣ゲーム」を行いました。これは「○○(隣の人の名前)の隣の××(自分の名前)です。」のように隣の人と自分の名前を合わせて自己紹介するゲームです。このアイスブレイクを通じて初対面の人同士でも気軽に打ち解けることができました。プログラムは二部構成で行われました。前半では、話し手の意図を読み取る技術や、フィードバック(受け応え)などの傾聴スキルについて、講義を通じて学びました。また、学んだことはワークを通して実践し、「話を聴く」ことの奥深さを体験しました。後半では、より実践的なワークを行うために、グループ内で楽しかった話、驚いた話などの一貫したテーマを決め、話し手はテーマについて数分間話をし、聴き手はその話を聴き、オブザーバーは話し手、聴き手双方の様子を観察しました。その後話し手は聴き手の、聴き手は話し手の、オブザーバーは話し手、聴き手双方の印象をメモ用紙に書き、それぞれ交換しました。メモ用紙をもらうことにより、「自分の話し方の癖がわかる」、「好印象を抱かれると嬉しい」などの声をいただきました。今回のプログラムでは、参加者が楽しみながらワークをしていくことが印象的でした。参加者からは、「話を聴くことの難しさを知れた」、「実践的でとても良かった」などの感想がありました。KYOPROでは、今後も様々なジャンルのプログラムを行い、学生のスキルアップのサポートをしていきます。



講師による説明



テーマについて話し合う学生とオブザーバー役として観察する学生



集合写真

## ボランティアセンター

「保護犬ボランティア～犬とのふれあいを通して保護犬の現状を知ろう～」を実施しました

10月30日（火）に「保護犬ボランティア～犬とのふれあいを通して保護犬の現状を知ろう～」を実施し、46名の学生が参加しました。

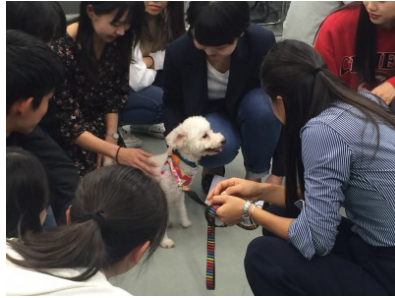
普通に暮らしているだけでは知ることのない動物保護の現状を、実際に現場で活動している人から聞き、その実情をよりリアルに知ることによって、動物を飼う人間の責任について深く考える機会を作れた事は、大変ではありましたが企画してよかったと思います。

本企画では、動物の譲渡会ボランティアや啓蒙活動をされている一般社団法人はーと in はーと Z Rの皆さまにご協力いただき、講義や保護犬とのふれあいを実施しました。代表の池上さんに動物保護の現状を話していただき、飼っていたペットが捨てられて日々殺処分されていること、それをなくすためにはペットの流通経路を変える必要があるなど、考えさせられる講義となりました。

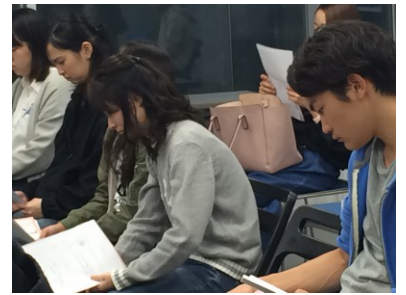
講義の後には、7匹の保護犬たちとのふれあいを通じて、保護されている動物がペットショップにいる動物とどう違うのかを肌で感じてもらいました。保護犬になった理由は多頭飼育崩壊や病気などさまざま、ただ講義で話を聞くだけでなく、実際に触れてみることで、より保護犬に関して理解が深まったと思います。



多くの学生が参加



保護犬に実際にふれあい合いながら質問



真剣な表情で講義を聴く参加学生



## 学習ステーション

「常駐アシスタントプログラム」を実施しました。

常駐アシスタントプログラムを学習ステーション（富士見坂校舎2階）で9月24日（月）～12月21日（金）（土日・祝日除く）の期間に実施しました。課題を抱える企業を対象に課題解決の方法を考えるプログラム、身近な食について考えるプログラム、などかたいテーマからゆるいテーマまで行いました。

参加者からは「普段友達とは話さないちょっと真面目なテーマについて、ディスカッションできて良かった」「色んな人と話せて刺激になった」など感想が寄せられました。

2019年度は、4月より始動する予定です。みなさんのご参加をお待ちしております。



プログラムの様子



## ◆編集後記◆

早いもので2018年もあっという間に終わってしまいますね。今回は2019年4月で平成が終わってしまうということで平成を振り返りたいと思います。

9・11 同時多発テロや東日本大震災、SMAP解散など多くの出来事がありましたが、皆さんの記憶に残る平成の出来事はありますか。

私の記憶に残る平成の出来事と言えば、ラグビーW杯2015 イングランド大会でW杯16連敗中だった日本代表が過去2回のW杯優勝経験を持つ南アフリカ共和国代表に勝利したことです。今でもあの時の興奮は忘れられません。皆さんもぜひ、振り返ってみてください。懐かしの記憶が蘇るかもしれません。

2019年5月より新しい年号を迎えますが、ドキドキワクワクさせる、そんな時代になることを期待しています。

ピアネット・マンスリーについてのご感想をお待ちしております。